

付属文書 C モジュール開発ワークシート¹

モジュールの紹介: モジュールに関する概説。このモジュールが重要で学ぶ価値のあるものと学習者に納得させる説明であること。

モジュールのタイトル: 学習者が内容の要点を理解できるよう、十分に具体的であること。

時間数: 学習成果を達成するために必要と思われる時間の概算。一つのモジュールに割り当てられる総時間を示してもよい。

学習成果: モジュールの修了時に学習者が知っておくべきこと、すべきこと、考えるべきことについての、非常に具体的な記述。特にサブユニットが含まれる場合には通常、1 モジュールにつき 5~20 の学習成果がある。サブユニットがある場合、まず全体的な学習成果から始め、次に各サブユニットについてのより具体的な学習成果を示す。全サブユニットを修了すれば、その学習成果全体でそのモジュールの成果を達成することができる。

- 学習成果を記述する際には、明瞭かつ具体的な動作動詞を使用すること²。
 - 一覧にする
 - 名前を挙げる
 - 記述する
 - 計画を概説する
 - 実証する
 - 説明する
 - 計算する
 - 決定する
 - 実行する

含まれる内容: モジュールに含まれる ICM 必須な能力および KSBs の一覧でもよいし、健康評価や両親の教育などの関連概念のグループであってもよい。

¹ この文書は、M.K. McHugh (ペンシルベニア大学看護助産大学院課程) による初版に基づく。許可を得て使用。

² 多くの教育者が、知識から理解を経る実証の各レベルに関して Bloom の分類学に言及している。

知識および技術を得るための学習活動：

様々なタイプの活動が考えられる。助産学教員は、能力の開発と実証を促進する種々のタイプの学習活動を活用する必要がある。各モジュールにはそのすべてではなく、数種の活動だけを使うことになる。

- a. テキストを読む。
- b. 学術誌の論文を読む。
- c. ワークシートを完成する。
- d. 教員との対話時間が十分に確保された講義に参加する。
- e. 手順を観察する。
- f. 技術演習で模型を使って実習する。
- g. 映像を見る。
- h. インターネットのサイトを調べる。

情報資源：この部分には、文書資料、ワークシート、ケーススタディー、インターネット上の論文、視聴覚資料などを掲載する。

臨床成果の記述：実践領域（例：分娩時のケア）に特に合わせた助産ケアプロセス（アセスメント、意思決定、計画、実施、評価）の各段階に応じて、臨床成果の記述をまとめることが容易かつ効率的である。これは、学習者にとってはパフォーマンスのための時間であり、感情と精神運動の技術、そして知識の応用が求められる。したがって、成果の記述は学習者のパフォーマンスを成功に「導く」ような形で記述しなければならない。

臨床能力を伸ばすための学習活動：様々な実践施設で、適格な助産学教員・指導者による監督を受け、助産ケアを必要とする様々な女性とともに行う臨床実習である。

学習者のアセスメント：学習者には、モジュールの理論部分について、いつ、どのように評価されるかを知らせなければならない。大きな試験の前に学生が受けられる小テストを用意する場合もある。臨床成果の評価のタイミングについても、定期的な学習者の自己アセスメントを含め、特定しておく必要がある。

モジュール評価フォーム：学習者にモジュールのどんな点（教員、活動、資源、実習経験）が役立ったかを尋ねる簡単な書式でよい。また、モジュール内で変更が必要な点も尋ねる必要がある。教員がこのフィードバックを積極的に活用し、このモジュールの間の経験についてさらに話し合いが必要な個々の学習者にはフォローアップをすることが、極めて重要である。

(公社) 日本看護協会 (公社) 日本助産師会 (一社) 日本助産学会 訳



片
、